

■ 凡例

管径 → : 給水本管
 管径 - - - - - : 給水管

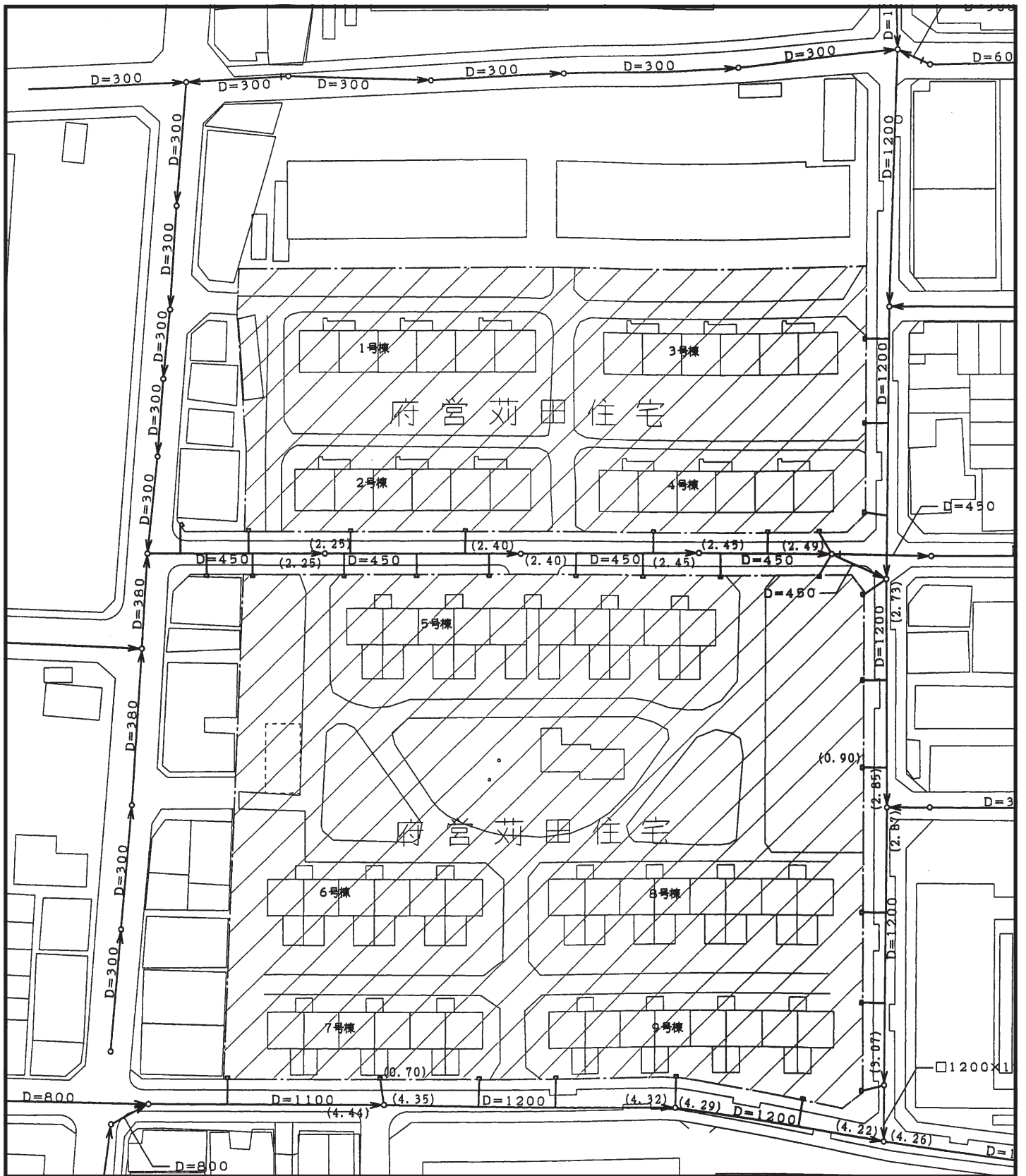
DA : ダクタイル鋳鉄管メカニカル継手
 DNS

- M — : 50mm以上メーター
- T — : 100m³以上
- : 消火栓(単口双口)
- : 空気弁(単口双口)
- || — : 止水栓 制水弁



S=1:500

添付図 上水道整備状況図



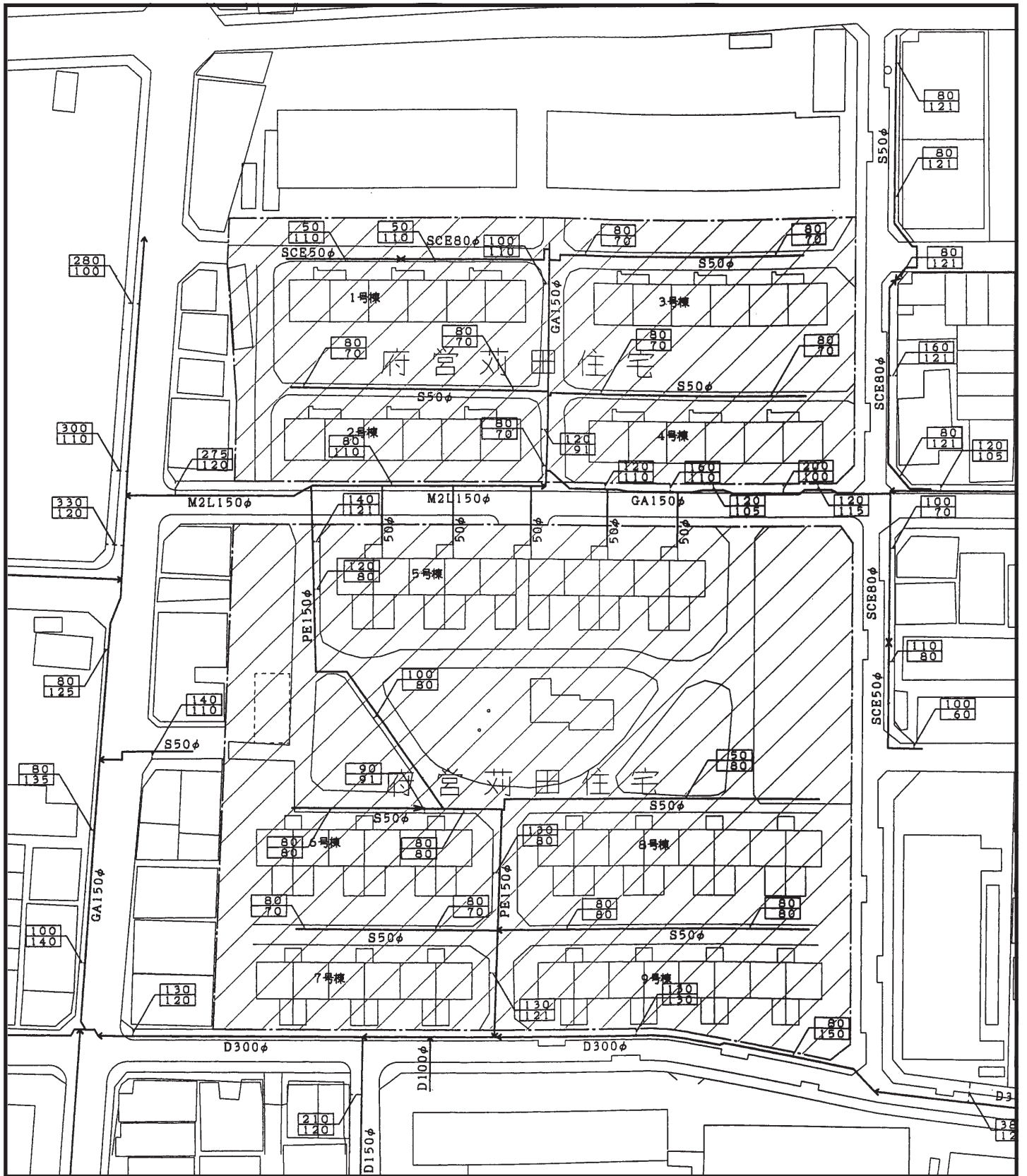
■ 凡例

- 管径 → : 下水本管
- : マンホール
() 内寸法はMH又は
集水樹深さを示す
- : 集水樹



S=1:500

添付図 下水道整備状況図



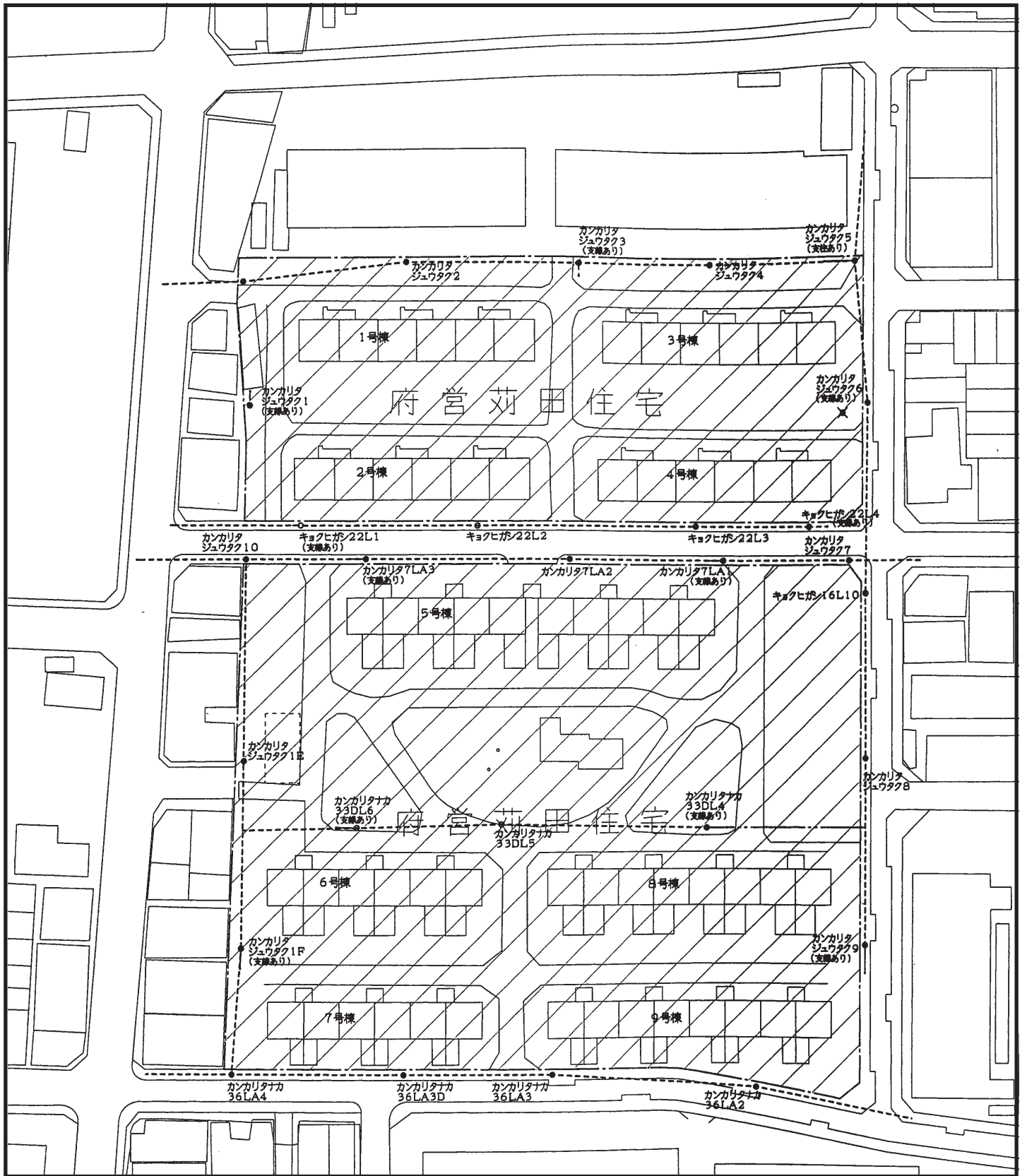
■ 凡例

- 管径 → : ガス本管
- S : 鑄鉄管
- D : 鑄鉄管
- GA : 鑄鉄管
- M2L : 鑄鉄管
- SCE : 鋼管
- PE : ポリエチレン管



S=1:500

添付図 都市ガス（大阪ガス）整備状況図

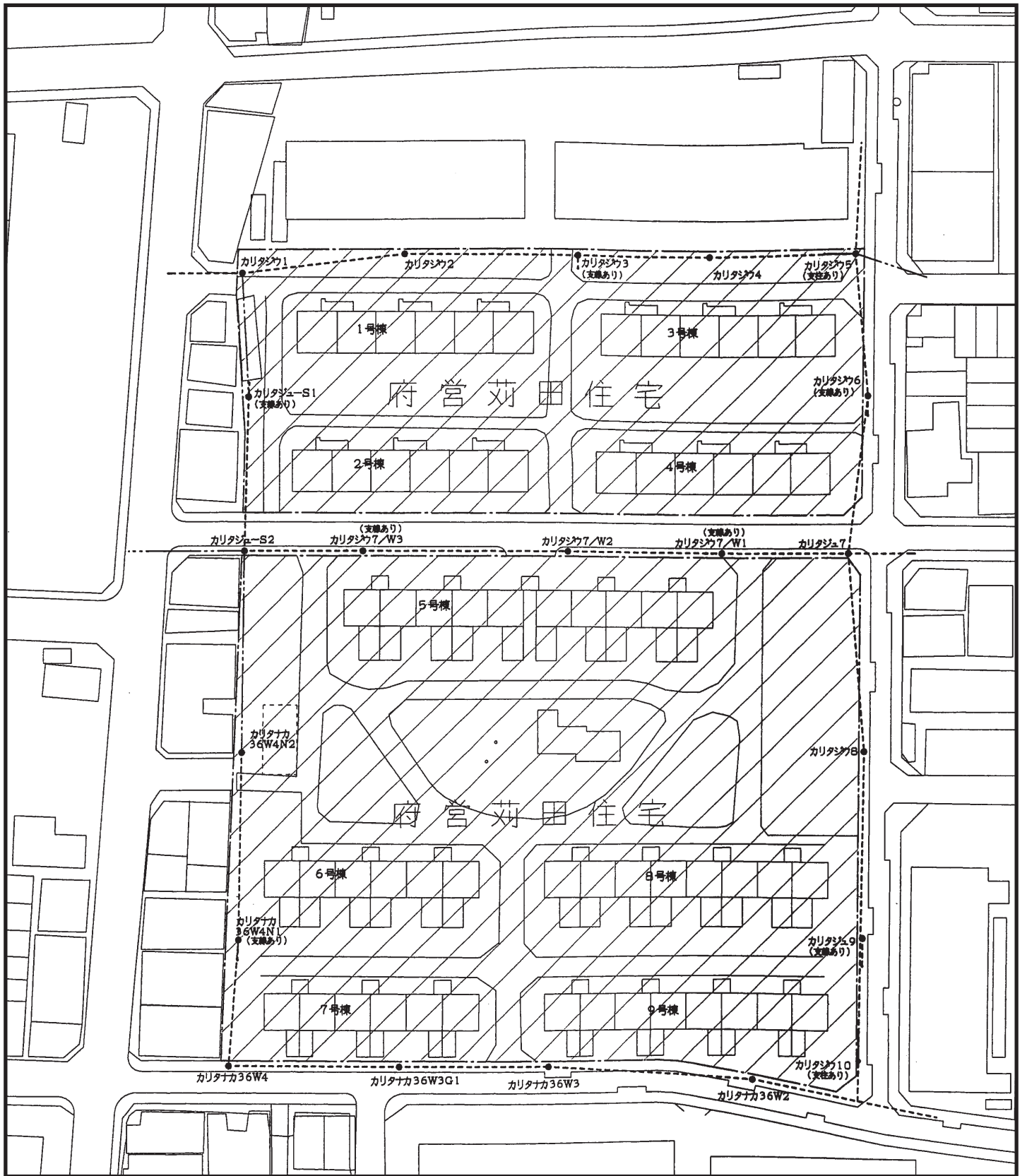


■ 凡例

- : NTT柱
- : 関電柱
- ⊗ : DDIポケット中継柱
- : 支柱あり
- - : 支線あり
- ⋯ : 電話線
- · - : 水平支線



S=1:500



■ 凡例

- : 関電柱
- : 支柱あり
- - : 支線あり
- - - : 電線
- - - : 水平支線のみ



S=1:500

教委文 第11-19 号

平成 16 年 8 月 31 日

大阪市教育委員会

教育長 様

大阪府教育委員会
教育長 竹内



遺跡の発見について (通知)

平成 16 年 8 月 24 日 付け 大市教委 第1912 号

で進達のありました

大阪府知事
齊藤 房江

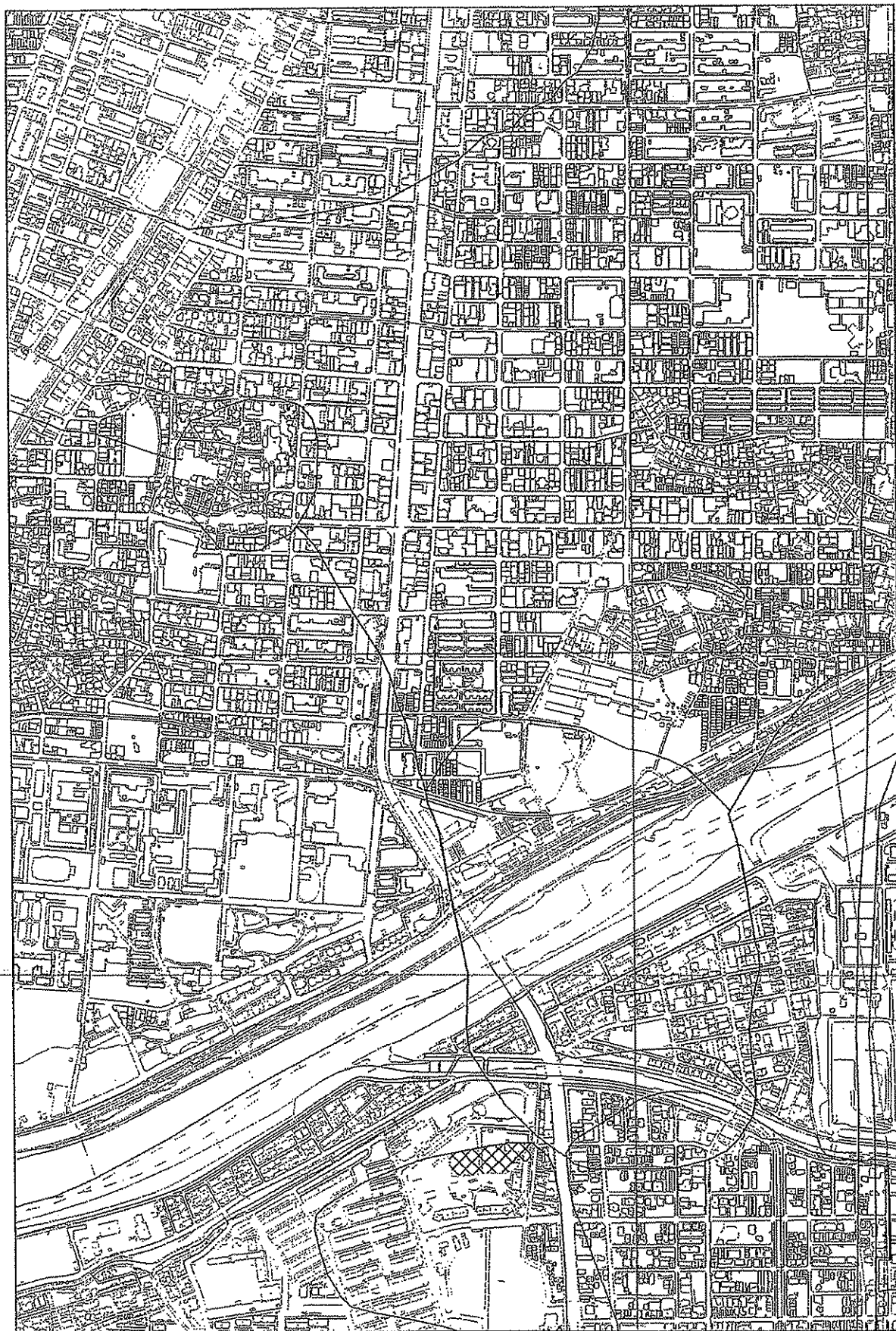
からの遺跡発見 通知 については、本府教

育委員会発行「大阪府文化財分布図」に別添地図のとおり登載し、今後周知の埋蔵文化財包蔵地

苅田9丁目所在遺跡

として取り扱いますので、

貴職におかれましても、文化財保護のためしかるべき措置をおとりくださいますようご留意下さい。



メッシュ： X: - Y: -
 中心： (-44334.64 , -156031.01)

縮尺： 1/ 10000

教委文 第 1840 号
平成 16 年 8 月 3 日

大阪府建築都市部長 様

大阪府教育委員会教育長
(公印省略)

府営苅田住宅建て替え工事に伴う
埋蔵文化財試掘調査結果について (回答)

平成 16 年 8 月 24 日付け、住整第 3970 号で依頼のありました標記の件について、
下記のとおり回答します。

記

1. 調査場所 大阪市住吉区苅田 9 丁目 府営苅田住宅内
2. 調査日時 平成 16 年 7 月 5 日～平成 16 年 7 月 15 日
3. 調査担当 大阪府教育委員会文化財保護課 調査第 2 グループ 技師 阿部幸一
4. 調査方法 建て替え工事予定地内に試掘坑を 5 箇所設定し、機械と人力を併用して、土層の変化に留意しつつ、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 調査結果 設定した 5 箇所の調査区のすべてで遺物包含層が確認された。また、
~~このうち 4 箇所で遺物が出土した。明確な遺構は確認できなかった。~~
6. 措置 府営住宅の建て替え工事に先立って発掘調査が必要です。
なお、調査方法、調査時期等については、当課と協議してください。
また、遺跡外から遺構・遺物が発見されたため、文化財保護法第 57 条
の 6 に基づく遺跡の発見通知を大阪市教育委員会あてに提出してくだ
さい。

府営住宅建替え計画に伴う荻田住宅・ の埋蔵文化財試掘調査結果について

大阪市住吉区荻田9丁目所在府営荻田住宅、
で実施しました埋蔵文化財の試掘調査結果
を報告します。

1 荻田住宅の試掘調査

府営荻田住宅内では別図の5ヶ所で試掘調査を実施した。試掘坑は2 m × 2 m ~ 3 m × 3 m程度の広さ確保するようにした。

荻田-1

住宅北端の1棟南側の試掘坑である。土層は柱状図に示したように、現地表面から①盛土、②耕土（暗オリーブ褐色土）は住宅開発前のもの、③灰白色土は床土、④灰黄褐色土は遺物包含層。⑤灰色土は⑥黄色粘土が風化した土。⑥黄色粘土は遺構検出面。の順であった。④灰黄褐色土からは、古墳時代から鎌倉時代頃までの土器片が出土している。⑤灰色土は南東約2 kmにある大和川今池遺跡でも観察される土層で、生活面になると思われるが遺構を検出することは難しい。また、わずかであるが遺物を包含する。⑥黄色粘土は大和川今池遺跡の遺構検出面である。調査範囲内で遺構は確認できなかった。

荻田-2

3棟の南側に試掘坑を設定した。旧耕土下の床土は観察されなかったが③灰黄褐色土は18 ~ 20 cm、④灰色土は8 cmの厚さを測る。③灰黄褐色土で古墳時代から鎌倉時代頃までの土器が出土した。この場所でも⑥黄色粘土上面で遺構を検出することはできなかった。

荻田-3

住宅地の中央、集会所の西側に試掘坑を設定した。①盛土と部分的にごく薄く残っていた耕土で44 cmを測る。遺物包含層である②灰黄褐色土も5 cm程度の厚さしか残っていなかった。③黒褐色土も古墳時代頃の遺物包含層で、5 cmの厚さで観察された。

この試掘坑でも遺構は検出されなかった。

荻田-4

7棟の南側に試掘坑を設定した。この場所では①盛土、②灰黄褐色土（遺物包含層）、③黄灰色粘質土、④黄色土（地山）の順で確認された。②灰黄褐色土は厚さ14 ~ 15 cmを測るが、遺物は少なく土師器の小片が出土しただけである。⑥黄色粘土は約30 cmの厚さで、その下は2層に分層できる堅く締まった砂礫層が堆積していた。砂礫内から遺物は出土しなかった。④黄色粘土層上面で遺構は確認できなかった。

荻田-5

9棟の南側に設定した試掘坑である。この地区では、①盛土、②旧耕作土、③灰黄褐色

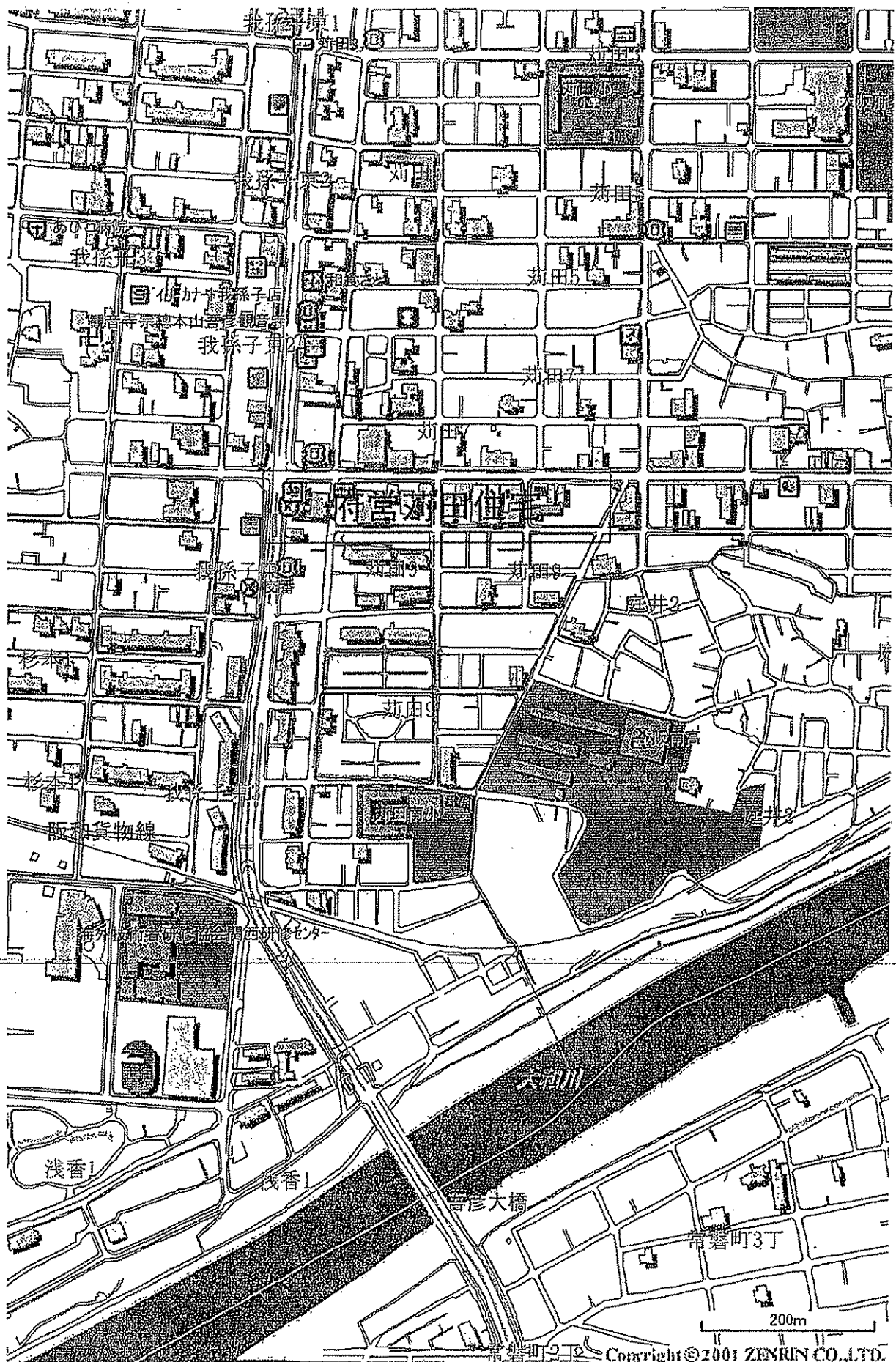
土（遺物包含層）の順に観察される。地山の黄色粘土層は東側半分を砂礫層に削られている。③灰黄褐色土から遺物は出土しなかった。遺構も確認できなかった。

苅田住宅の試掘結果

苅田住宅の試掘調査では、北側の苅田－１・２・３で古墳時代から中世頃の遺物が出土した。また、苅田－１では鉾滓の小片も出土している。南側の苅田－４・５では遺物包含層は確認できるが遺物出土量は減少する。地山下層に堆積する砂礫層から、住宅南部には弥生時代以前に台地を開析して流れる河道があったと考えられる。

試掘地は、遺跡分布図で苅田南小学校付近までとされる依網池推定池と山之内遺跡の間にあり、周知の遺跡範囲外とされていた。地山の黄色粘土層は上町台地から泉北台地にかけて広く分布しており、大和川の南に所在する大和川今池遺跡では黄色粘土層上面で遺構が確認されている。

依網池は『日本書紀』や『古事記』に崇神天皇の時代に開発され、後に朝廷の直轄地である屯倉が経営されたと記されている。今回の試掘では遺構を確認することはできなかったが、広範囲を調査すれば屯倉に関連する遺構や、中世頃この地域を拠点に活躍した我孫子鍛冶に関連する遺構の検出が期待される。



200m

Copyright © 2001 ZENRIN CO., LTD.

公園サンワリア 刈田3号棟

刈田住宅試掘調査位置図

16
ツ刈田

6

刈田-1

刈田住宅2棟

刈田-2

ぷりんすマンション

刈田-3

刈田-4

刈田-5

セー/あひこ

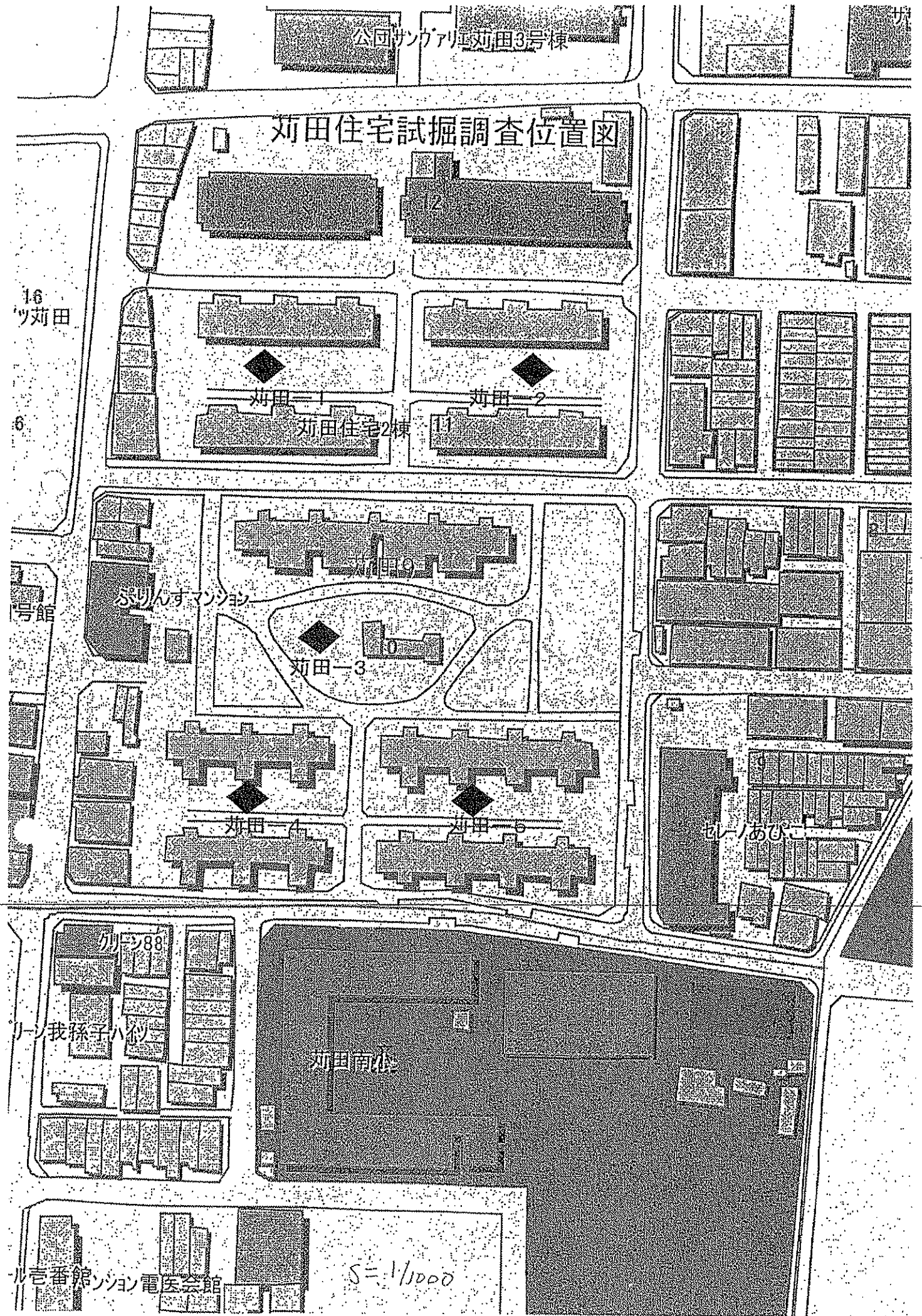
別荘88

リオン我孫子ハイツ

刈田南公園

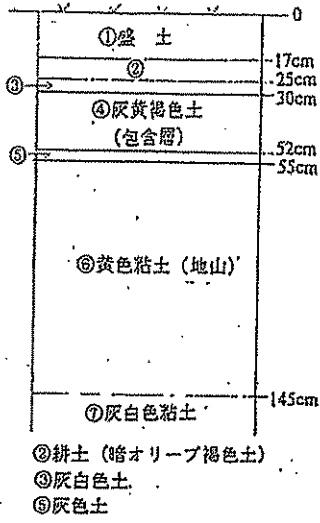
ル言番館ソシオン電医会館

S=1/1000

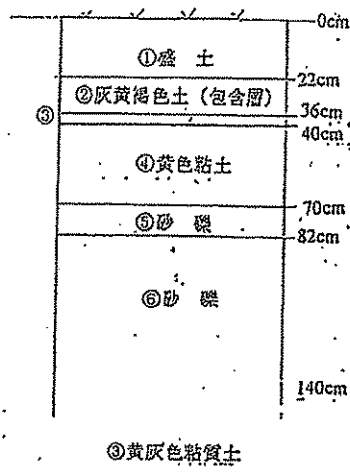


試掘調査地柱状図

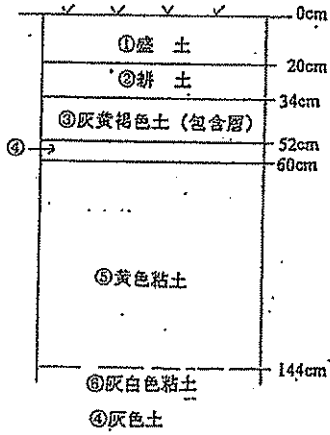
刈田-1



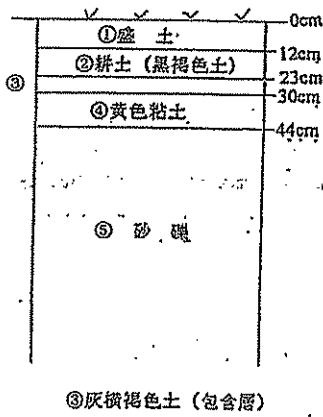
刈田-4



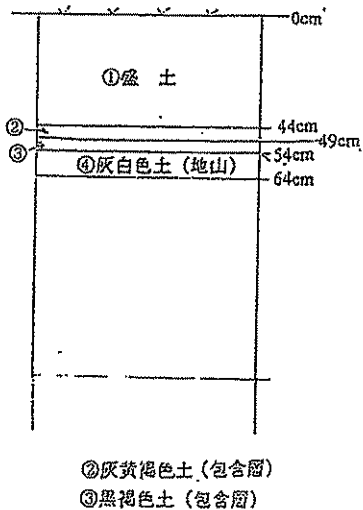
刈田-2



刈田-5



刈田-3



添付図⑫土地履歴調査結果概要

Ⅲ. 調査期間

平成 18 年 2 月 1 日～平成 18 年 2 月 28 日

Ⅳ. 調査内容

1. 土地の利用履歴等調査

(1) 調査項目、調査内容及び調査方法

No.	調査項目	調査内容	調査方法
1-1	登記簿等による調査対象地の土地利用履歴調査	土地登記簿による調査対象地の土地所有者の変遷、業種や地目の調査を行った。	資料(資料Ⅰ 全部事項証明書) 調査による。
1-2	地図や航空写真による調査対象地及び調査対象地周辺の土地利用履歴の調査	旧地形図、旧住宅地図、過去の航空写真等により、土地利用の変遷の調査を行った。	資料(資料Ⅱ-旧地形図、資料Ⅲ-旧住宅地図、資料Ⅳ-旧航空写真) 調査による。
1-3	現在の調査対象地及び周辺の土地利用状況の調査	現地踏査および聞き取り調査により、現在の調査対象地及び調査対象地周辺の土地利用状況の調査を行った。	現地踏査等調査による。
1-4	有害物質使用施設の設置や、管理有害物質「参考資料Ⅰ」の使用履歴等の調査	水質汚濁防止法第2条第2項に規定する有害物質使用特定施設又は有害物質使用届出施設等(大阪府生活環境の保全等に関する条例(以下、大阪府条例と云う。)第49条第2項に規定する有害物質使用届出施設、及びダイオキシン類対策特別措置法に規定する特定施設「参考資料Ⅱ、参考資料Ⅲ、参考資料Ⅳ」)の設置や、管理有害物質の使用等の履歴についての調査を行った。	資料(資料Ⅰ - 全部事項証明書、資料Ⅱ-旧地形図、資料Ⅲ-旧住宅地図、資料Ⅳ-旧航空写真)、及び現地踏査等調査による。
1-5	土壌汚染総合評価	1-1～1-4の調査結果等から総合的に調査対象地の土壌汚染の可能性を評価した。	—

添付図⑫土地履歴調査結果概要

(2) 調査資料の入手方法

資料番号	資料名	入手方法
I	全部事項証明書	大阪法務局出張所 発行
II	旧地形図	大阪府立中之島図書館所蔵旧地形図 複写
III	旧住宅地図	大阪府立中之島図書館所蔵旧住宅地図 複写
IV	旧航空写真	財団法人 日本地図センター所蔵航空写真 複写
V-1 V-2	現在の調査対象地及び周辺の写真	現地にて撮影 (平成 18 年 2 月 23 日)

2. 地形・地質及び活断層調査

(1) 調査項目、調査内容及び調査方法

No.	調査項目	調査内容	調査方法
2-1	調査対象地周辺の地形・地質概況	調査対象地周辺の地形・地質の概況調査を行った。	資料 (土地条件図「大阪東南部」) 調査による。
2-2	調査対象地周辺の活断層	調査対象地周辺の活断層位置の調査を行った。	資料 (活断層図) 調査による。

(2) 調査資料の入手方法

資料番号	資料名	入手方法
VI	土地条件図	1 : 25000 土地条件図 「大阪東南部」 (国土地理院, 1983) 抜粋
VII	活断層図	活断層詳細デジタルマップ (東京大学出版会 2002 年発行) 抜粋

添付図⑫土地履歴調査結果概要

V. 調査結果

1. 土地の利用履歴等調査

1-1. 登記簿等による調査対象地の土地利用履歴調査

(1) 土地に関する全部事項証明書による調査（資料 I 全部事項証明書参照）

調査対象地（16743.71m²）は、いずれも昭和 45 年に合筆された 39 番（5150.38m²）51 番（5123.94m²）及び 57 番（6469.39m²）の 3 筆から成る。所有者はいずれも昭和 45 年に大阪府で登記されている。

調査対象地の地目は昭和 45 年以前に、田から宅地に変更されている。

以下に、土地に関する全部事項証明書の記載事項の要旨を地番毎に示す。

39 番：5150.38m²

年代	所有者		合分筆	地積(m ²)
昭和 45 年以前 (年月日不詳)	—	田→宅地		1126→1176.85
昭和 45 年	大阪府	宅地	38 番 1、38 番 2、40 番、41 番を合筆	5150.38

51 番：5123.94m²

年代	所有者		合分筆	地積(m ²)
昭和 45 年以前 (年月日不詳)	—	田→宅地		725→776.85
昭和 45 年	大阪府	宅地	51 番、52 番、53 番、54 番を合筆	5123.94

57 番：6469.39m²

年代	所有者		合分筆	地積(m ²)
昭和 45 年以前 (年月日不詳)	—	田→宅地		1606→1606.61
昭和 45 年	大阪府	宅地	58 番、59 番、60 番、61 番 1、62 番 1 を合筆	6469.39

添付図⑫土地履歴調査結果概要

1-2. 地図や航空写真による調査対象地及び調査対象地周辺の土地利用履歴の調査

調査対象地及び調査対象地周辺は大正 14 年頃には概ね農地である事を旧地形図（大正 14 年）により確認した。以降、昭和 32 年頃まで概ね農地のままである事を旧地形図、旧航空写真等で確認した。

昭和 36 年頃から平成 16 年頃まで、調査対象地は大阪府営住宅（苅田住宅）に利用されている事を、旧地形図、旧住宅地図、旧航空写真等で確認した。

（資料Ⅱ-旧地形図、資料Ⅲ-旧住宅地図、資料Ⅳ-旧航空写真 参照）

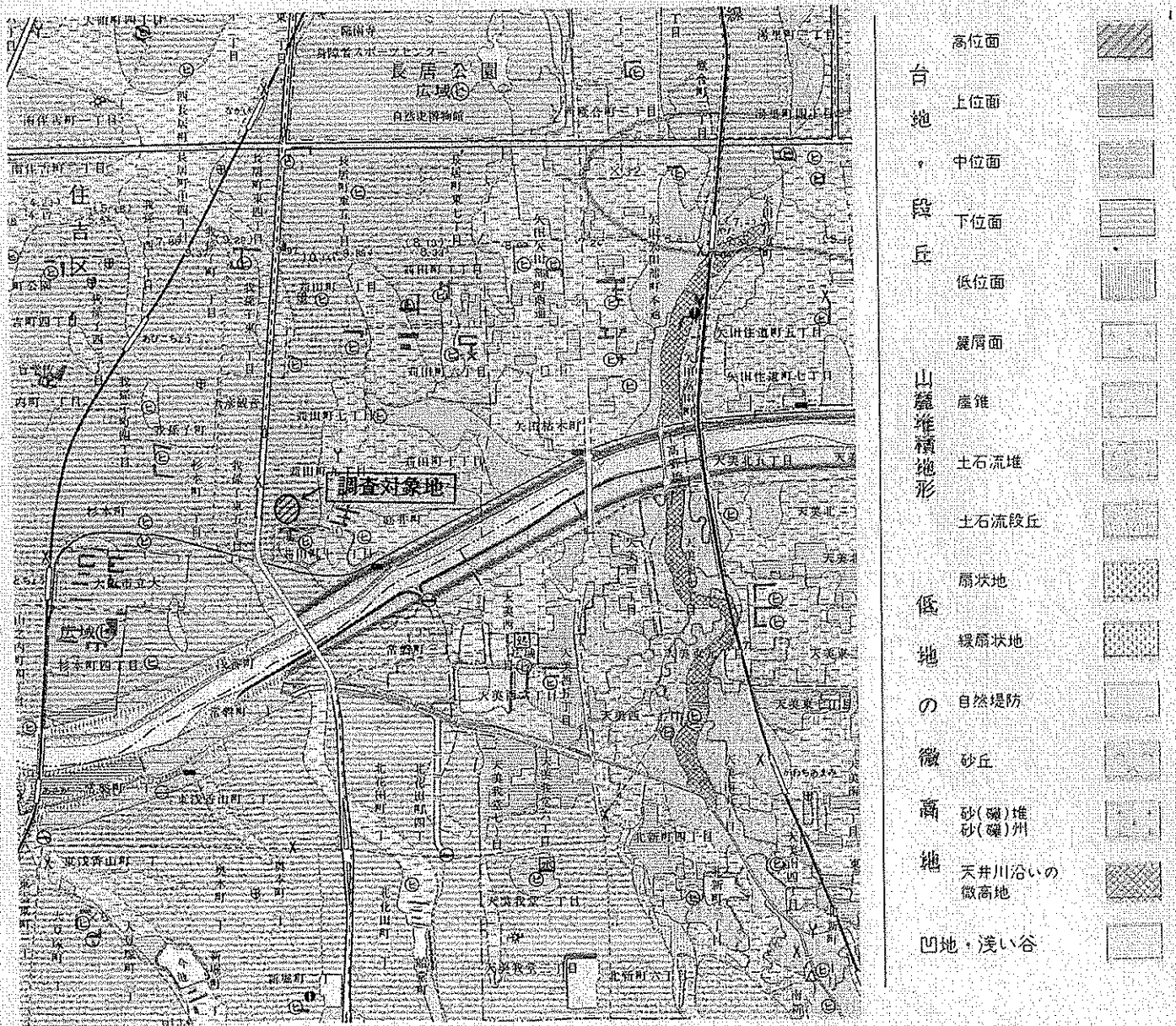
年代	根拠資料	土地利用状況
大正 14 年	旧地形図（大正 14 年）	農地
昭和 9 年	旧地形図（昭和 9 年）	
昭和 23 年	旧航空写真（昭和 23 年）	
昭和 26 年	旧地形図（昭和 26 年）	
昭和 32 年	旧地形図（昭和 32 年）	
昭和 36 年	旧住宅地図（昭和 36 年）	集合住宅
昭和 39 年	旧住宅地図（昭和 39 年） 旧航空写真（昭和 39 年）	
昭和 41 年	旧住宅地図（昭和 41 年）	
昭和 44 年	旧住宅地図（昭和 44 年）	
昭和 48 年	旧住宅地図（昭和 48 年）	
昭和 49 年	旧航空写真（昭和 49 年）	
昭和 52 年	旧住宅地図（昭和 52 年）	
昭和 56 年	旧住宅地図（昭和 56 年）	
昭和 60 年	旧航空写真（昭和 60 年）	
昭和 61 年	旧住宅地図（昭和 61 年）	
昭和 63 年	旧地形図（昭和 63 年）	
平成 8 年	旧住宅地図（平成 8 年）	
平成 13 年	旧住宅地図（平成 13 年） 旧航空写真（平成 13 年）	
平成 14 年	旧地形図（平成 14 年）	
平成 16 年	旧住宅地図（平成 14 年）	

添付図⑫土地履歴調査結果概要

2. 地形・地質及び活断層調査

2-1. 地形・地質概要

調査対象地の地形は、段丘地の段丘下位面にあたり、表層地質は、主として砂礫・砂の後期更新世の低位段丘堆積物から成る。

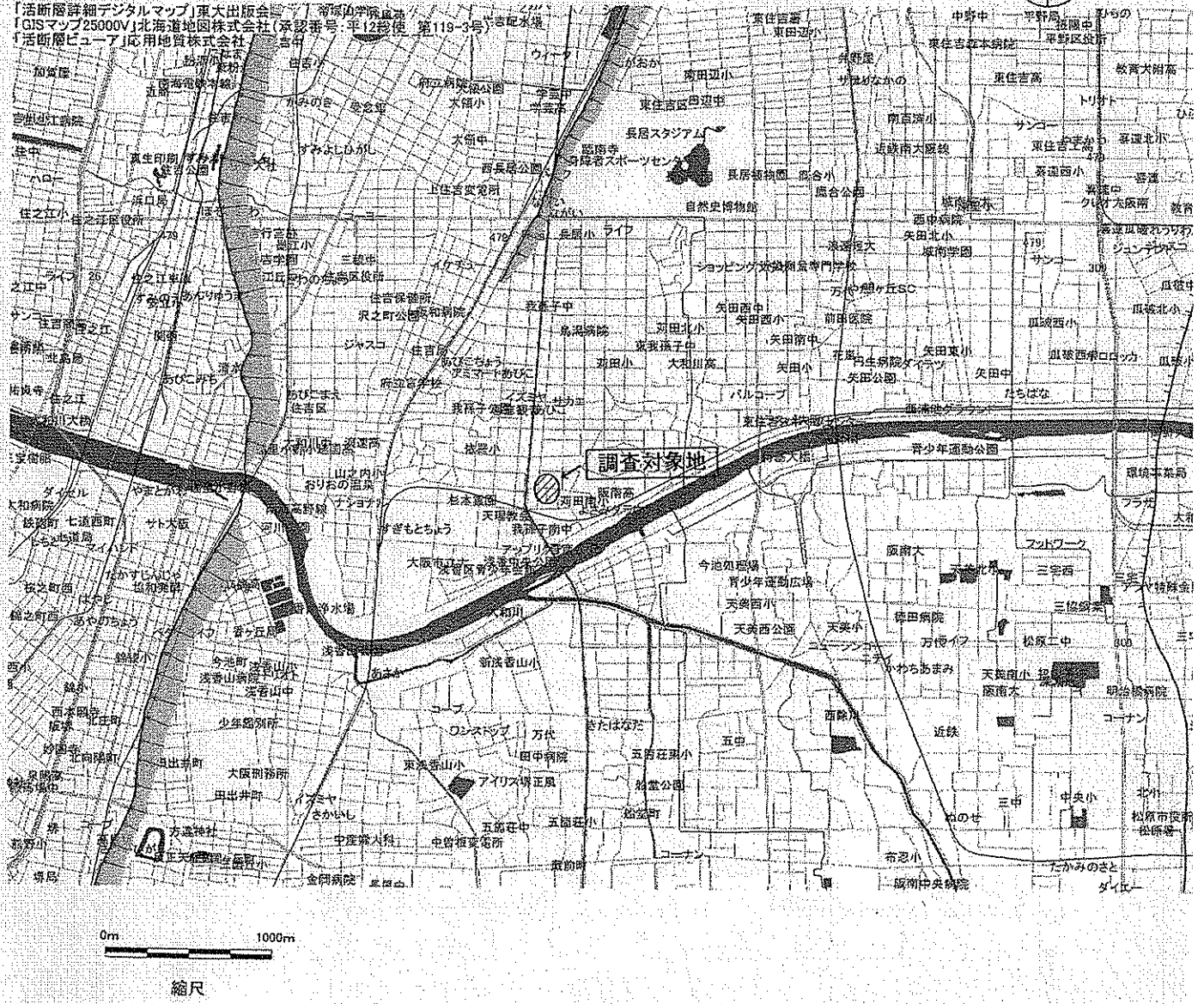
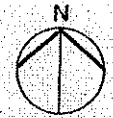


資料 VI 調査地周辺の地形分類図 (1: 25000 土地条件図「大阪東南部」(国土地理院, 1983))

添付図⑫土地履歴調査結果概要

2-2. 活断層位置概要

調査対象地から直近の活断層（赤色）の位置は、下図に示すように、調査対象地から概ね北北西に約1,200m程度離れている事を確認した。



資料 VII 活断層詳細デジタルマップ（東京大学出版会 2002年発行）